

のぼり^{まつ}祭り

上篠崎一丁目の^{せんげん}浅間神社の^{れいさいじつ}例祭日は毎年7月1日で、通称「のぼり祭り」と呼ばれています。高さ20m以上もある^{おおのぼり}大幟が10本も立てられることからこの名があります。^{うじこ}氏子たちは5地区(上篠崎・^{なかずし}中囀師・本郷・西篠崎・下篠崎)に分かれていて、それぞれの地区ごとに2本ずつ幟をあげます。祭りの当日、10本の大幟が森の木立を越えて大空にひるがえる壮観さは関東でも大変珍しい祭礼といわれています。



のぼり祭り(浅間神社)

幟があげられるのは、6月30日の早朝、まだ暗い午前4時30分頃から始まります。1本の幟を立てるのに30分から40分かかり、10本すべてが立ち並ぶのは午前11時頃になります。かつては、毎年立てていましたが、近年は隔年ごとに立てるようになりました。

幟を立てる日は、梅雨時のため雨になることが多く、境内の土がぬかるんで泥まみれになるので、別名「どろんこ祭り」ともいわれています。

「のぼり祭り」の歴史は古く、江戸時代中期、八代将軍吉宗の時代以前から行われてきたといわれています。戦後は、費用や人手の関係で、幟を立てるのは3年に1度となり、またクレーンなどの機械をつかって立てざるを得なくなっていました。

昭和55年(1980)、氏子の中から、「機械に頼らず、昔のように人力で幟を立

てたい」という声が出て、氏子を中心に「幟会」が結成されました。それ以来、一年おきに昔と同じように、幟は人力で立てられています。なお、立てた幟は7月2日におろされます。昭和55年(1980)には区指定無形民俗文化財(風俗慣習)に認定されました。

浅間神社(上篠崎一丁目)

天慶元年(938)5月の創建といわれ、区内で最も古い神社です。木花開耶姫尊このはなさくやひめのみことを祀っています。天慶3年(940)平将門たいらのまさかどの乱を鎮めるため、平貞盛たいらのさだもりが将門降伏の祈願をこめ、金幣きんぺいと弓矢を奉納したと伝えられています。文化文政(1804~1830)の頃から江戸やその周辺からの参詣者さんけいしやが増加し、講社こうしゃなども組織されるようになりました。

境内には多くの樹木が生い茂り、昔から「せんげん様の森」として親しまれています。なかには区の保護樹が何本もあり、「社叢」は区指定の天然記念物にもなっています(昭和57年認定)。

浅間神社の富士講碑

上部に富士山の図、その両側に瑞雲ずいうんにのった日輪にちりん(左)と月輪がちりん(右)が描かれ、中央に「元祖じきぎょう食行みろく身禄か価」と大きく彫られ(石碑には「禄」が「祿」と彫刻)、右端には「天保十一子ね年五月吉日」(1840)、左端には「江戸北新堀しんぼりく狗願主がんしゅちゆう中」と刻まれています。下部には線刻の三猿さんえんがあります。昭和56年(1981)には区登録有形文化財(歴史資料)に認定されました。

食行身禄じきぎょうみろく(1671~1733)は伊勢の人で油商を営み、伊藤伊兵衛と称していましたが、江戸に来て富士信仰の熱心な信者となりました。富士講の発展に際して中心となった人物で、富士信仰身禄派の元祖といわれています。



富士講碑

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)